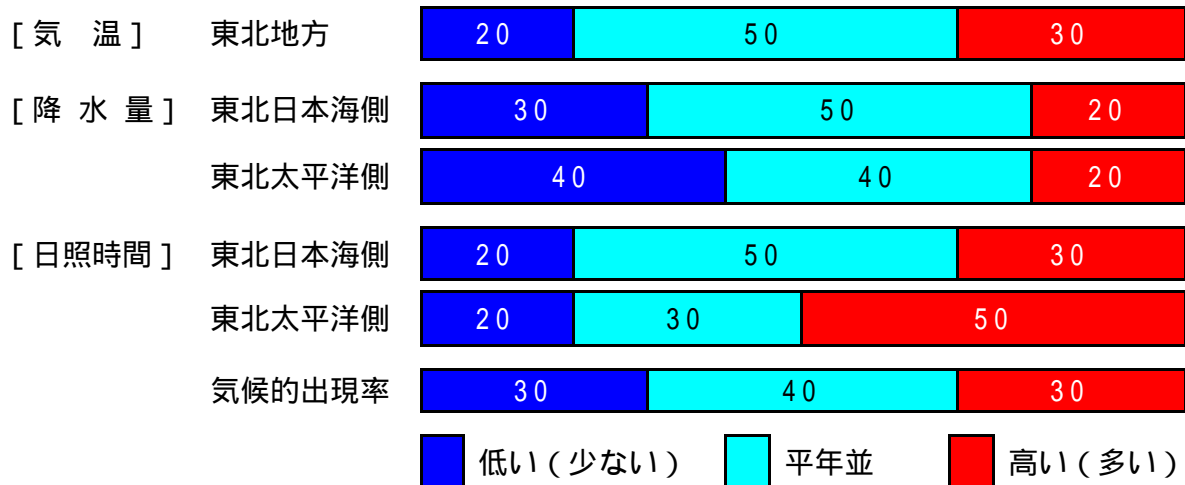


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：3 月 11 日～4 月 10 日）

平成 12 年 3 月 10 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]：東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「高い」で、その確率は 30％です。「低い」の確率は 20％と小さい。

[降 水 量]：東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

東北太平洋側は、「平年並」か「少ない」の可能性が最も大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

[日照時間]：東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

東北太平洋側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、この期間天気は周期的に変化するでしょう。期間の前半は気圧の谷の通過後、一時冬型の気圧配置となる見込みです。このため、期間の前半の気温は平年並か平年より低く、寒暖の変動が大きいでしょう。後半は平年より暖かい日が多くなる見込みです。

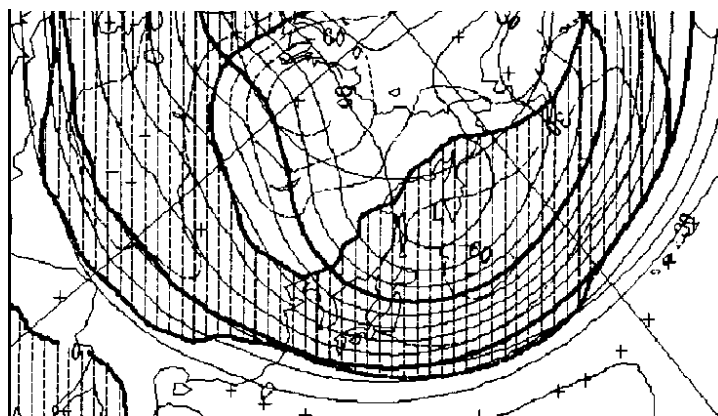
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は、東北日本海側で約 18 日、東北太平洋側で約 21 日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1 週目…………… 向こう一週間は、11 日から 12 日にかけてと期間の中頃気圧の谷が通過し、天気がかくれる見込みです。気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪の降る日が多く、東北太平洋側は沿岸部を中心におおむね晴れるでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 4 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 2 週目…………… 気圧の谷が周期的に通過するでしょう。気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置になり、東北日本海側では雪の降る日があるでしょう。東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。
平均気温は低い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 4 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 3～4 週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。東北地方は平年同様晴れの日が多い見込みです。
平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 8 日、東北太平洋側で約 10 日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

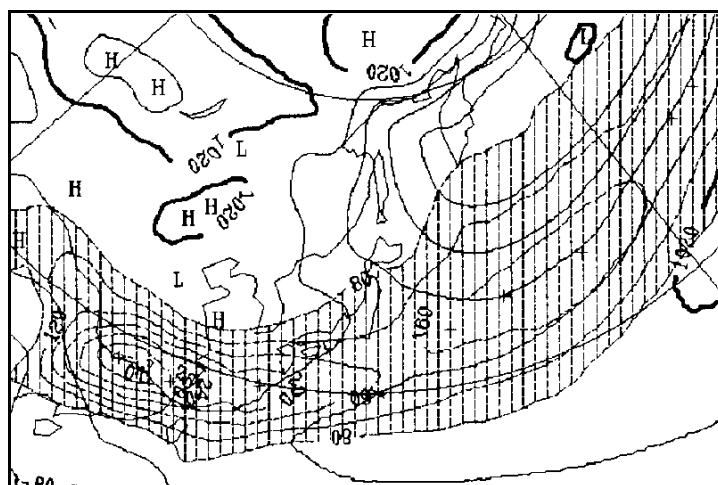


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は負偏差に覆われる。バイカル湖付近の気圧の尾根が明瞭で寒気が南下しやすい。特に 1 週目（図略）、2 週目（図略）にその傾向がはっきりしている。3～4 週目には日本付近は負偏差だが弱い。天気は周期的に変化するが、上空の流れは東谷傾向で、低気圧は発達しにくい。

注 東谷：上空で日本の東側に谷が形成されている状態。低気圧が日本付近で発達しにくい。



月平均の地上気圧と降水量

・地上気圧と降水量

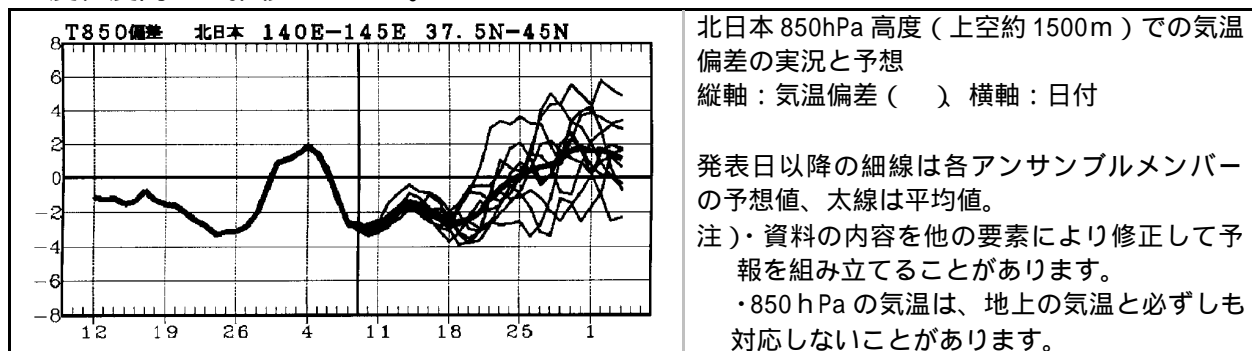
月平均でみると、北日本では弱い冬型の気圧配置を示す。また、日本付近には降水域が東西に広がり、本州南岸沿いで比較的明瞭である。

週別（図略）では、1、2 週目は冬型の気圧配置がややはっきりしており、本州南岸のまとまった降水域も東北地方にはかからない。3 週目以降は冬型の気圧配置はくずれ、周期変化が基調となり、降水域は北日本まで広がる。

3. 北日本 850hPa の気温平年差の実況と各アンサンプルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温平年差は、アンサンプルメンバーの平均でみると、1 週目、2 週目は負偏差、3 週目以降は正偏差に変わる。2 週目以降バラツキは大きくなり、後半の信頼度は小さい。

なお最近の実況では、東北地方の地上気温平年差は、北日本 850hPa の気温平年差に比べて 1 度程度高めに推移している。



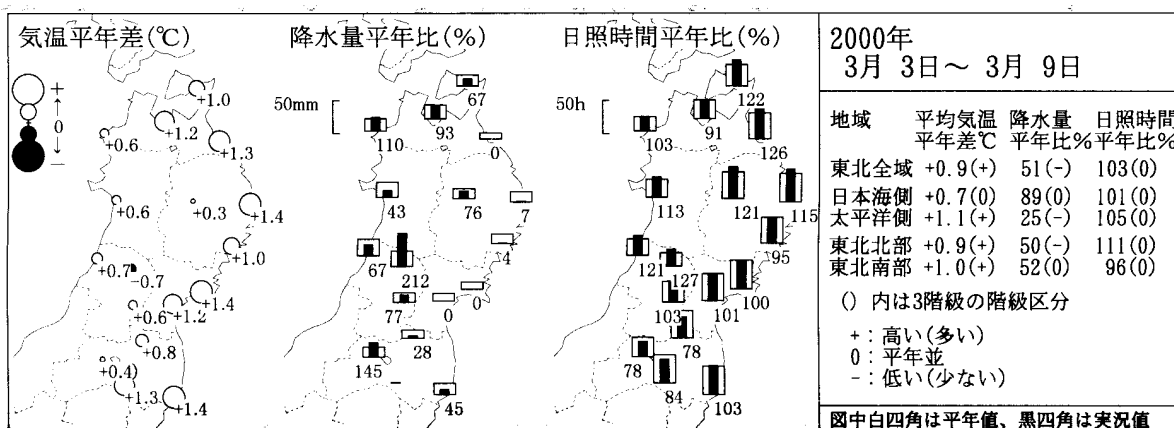
注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンプル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンプルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間（3 月 3 日～3 月 9 日）の天候の経過

この期間、気圧の谷が周期的に通過し、気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となった。

気圧の谷は 4 日と 7 日に通過し、東北日本海側を中心に天気が崩れた。3 日と 6 日は移動性高気圧に覆われ東北地方は概ね晴れたが、7 日に寒冷前線が通過した後は強い冬型の気圧配置となり、上空に強い寒気の入った 9 日は東北日本海側では所によって大雪となり、東北太平洋側でも雪の所が多かった。

平均気温は、東北日本海側では平年差+0.7℃で平年並、東北太平洋側では平年差+1.1℃と平年より高かった。降水量は、東北日本海側では平年比 89%で平年並、東北太平洋側では平年比 25%で平年より少なかった。日照時間は、東北地方で平年比 103%と平年並だった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）